

## 日本の中学生の親子関係と非行的態度<sup>1)</sup>

松 井 洋\*

### Parent-child Relationships and Attitudes toward Delinquency in Japanese Junior High School Students

Hiroshi MATSUI

#### 要 旨

日本の青少年における非行の問題の主要な原因の一つとして、親子関係の問題があるのではないかと考えた。これを検証するために、中学生とその親が、自分たちの親子関係や親の行動をどのように考えているのか調査した。さらに、中学生の非行的態度についても調査し、親子関係と非行的態度の関係について検討した。

被験者は青森、東京、静岡、鹿児島 の公立私立中学校の2年生の生徒1156名、その親1447名、合計2603名。

結果は、日本の親子関係が、やはり心理的距離が遠いと言い得るような問題を抱えていること、親子関係と中学生の非行的態度との間に明らかな関係があることを示した。

キーワード：親子関係、非行的態度、中学生、心理的距離

#### 目 的

一時低下していたわが国の非行件数が近年増加に転じ、戦後第四の波がおとずれる恐れがあるという（平成13年度警察白書）。また、凶悪犯少年は平成12年度には成人の5倍に達している。さらに、中学生の覚醒剤等の薬物の使用が増えている。このような時、今日のわが国の非行の背景や原因についてあらためて検討する必要があると考える。

筆者らはこれまで、日本の中学生・高校生の価値観、愛他性、道徳意識、友人関係、親子関係等について、国際比較調査、経年比較調査を行ってきた。その結果、日本の若者は、物質指

---

\*教授 社会心理学

向、現在指向などにかかなり偏った価値観があり、性に関することなど非行に対して許容的で、愛他性が低く、対人関係が弱い等、他の国の若者と比べたとき、かなり顕著な問題傾向がある事がわかった。また、そのような傾向は経年比較の結果、この10年ほどの間に顕在化したと言い得る結果を得た（松井1991, 1997, 1998, 1999, 2000, 松井他1995, 1998, 中里・松井1993, 1996, 1997, 1999他）。このように、わが国の非行の背景には、一般の青少年の上記のような態度の変化があると考えられる。

このような態度は非行につながりやすい、非行的行為に許容的な態度、すなわち非行的態度に結びつくということが上記の研究からも推定できる。このような非行的態度の背景や原因を特定し、対策を求めることはわが国の将来のために必要なことと考える。

このような問題傾向の原因として考えられることの第一には、親子関係の問題があげられる。その理由は、前述の研究の結果、日本の中学・高校生の親子関係は他の国に比べて、子どもが親のようになりたくない、親を尊敬しない等、心理的距離が遠いと言えるような問題があり、また、心理的距離が遠いことは愛他性の低さと関連があるという結果もあるからである（松井他1999, 2000, 中里・松井1997, 1999, 松井2001）。

以上の理由から、本研究は、中学生とその親の親子関係について調査を行い、親子関係と非行的態度との関係について検討する。

## 方 法

**1. 被験者：**青森、東京、静岡、鹿児島 of 公立私立中学校の2年生の生徒とその父親、母親。被験者数は、生徒男子535名、女子618名、父親（または父に代わる人）645名、母親（または母に代わる人）802名、合計2603名（欠損値を含む）。なお、中学生と親の被験者は全体としては対応しているが、個々には対応していない。

**2. 調査内容：**父子関係、母子関係それぞれについて各10問、合計20問の質問紙調査を行った。具体的には、「父は私のすることになにかと口出しする」、「父はなにかと私に相談する」、「父は私のいうことなら何でもきいてくれる」、「父は私にあまりかまわない」、「父とはうまくいっている」、「父を尊敬している」、「父は私に期待している」、「父のようになりたい」、「父から人に親切にすることの大切さを教わった」、「父は自分にとってこわい存在だ」。なお、母に関する質問では、父を母に置き換えた。保護者への質問では、父・母を「私は子どもから」に置き換えた。選択肢は、「そうである」、「かなりそうである」、「あまりそうでない」、「そうでない」の4件法である。

非行許容性に関する項目は「タバコを吸う」、「酒を飲む」、「エッチな雑誌やアダルトビデオを見る」、「夜遅くまで外で遊ぶ」、「ちょっとしたものを万引きする」、「ケンカをして怪我をさせる」、「人の物を盗む」、「覚醒剤などの薬物を使う」、「学校をさぼる」、「異性の友達と二人で泊まる」の10項目である。これらの各項目について、「たいしたことはない」、「わるいことだ」、「かなり悪いことだ」、「非常に悪いことだ」から一つを選択させた。なお、本調査ではこれらの他に、価値観、道徳意識、非行許容性等について21問の質問をしているが、その結果についてはここでは述べない。

調査方法：調査は中学校のPTAの協力を得て、2000年から2001年にかけて無記名で行った。保護者は自宅で回答した。

## 結 果

### 1. 親子関係に対する中学生と親の認識

親子関係に関する10項目の間の回答の各々を父母別、中学生の男女と男子の親、女子の親別に集計した。

#### (1) なにかと口出しをする

「父（母）は私のすることになにかと口出しをする」について、父子関係を表1、母子関係を表2に、それぞれ中学生の男子・女子生徒別とそれぞれの父親（母親）別に集計した。なお、

表1 父は口出しする（人，％）

	1)  そうである		2)  かなりそうである		3)  ややそうだ		4)  そうではない		合計	
男子	92	18.1	53	10.4	180	35.4	184	36.1	509	100.0
女子	114	19.9	48	8.4	204	35.5	208	36.2	574	100.0
男子の父親	32	9.1	30	8.5	203	57.8	86	24.5	351	100.0
女子の父親	31	10.8	43	15.0	142	49.7	70	24.5	286	100.0
合計	269	15.6	174	10.1	729	42.4	548	31.9	1720	100.0

表2 母は口出しする（人，％）

	1)  そうである		2)  かなりそうである		3)  ややそうだ		4)  そうではない		合計	
男子	11	2.2	8	1.6	68	13.4	422	82.9	509	100.0
女子	6	1.0	6	1.0	66	11.5	496	86.4	574	100.0
男子の母親	28	8.0	24	6.8	174	49.6	125	35.6	351	100.0
女子の母親	19	6.7	26	9.1	151	53.0	89	31.2	285	100.0
合計	64	3.7	64	3.7	459	26.7	1132	65.9	1719	100.0

無回答及び無効回答は集計から除外した。これらの集計方法は以下の10問全て同じである。

「父の口出し」については全体に「ややそうだ」、「そうではない」など、あまり口出しをしないという回答が多いことが特徴である。それに対して「母の口出し」は全体で「父の口出し」より「そう」「かなりそう」という回答が多い ( $\chi^2=113.187$ ,  $p=0.000$ , 全対象者の中央値によって4件法の回答を2分したときの人数の $\chi^2$ 検定,  $df=1$ , 以下同じ)。この傾向は各層に共通しており, また「そうではない」の割合は全体で父は母の2倍であり, 母に比した時の父の口出しの少なさが顕著である。

また, 中学生の男女の間に差はないが, 中学生と父親の間には違いがあつて, 男女とも中学生の方が父親自身より「そうではない」という人数が多い ( $\chi^2=13.086$ ,  $p=0.000$ )。ただし, 「そうである」の割合は男女とも生徒のほうが高い。つまり父親の多くは『やや口出し』が多くはっきりしないが, 中学生のほうは口出しをする, しないという受け止め方, 判断がはっきりしている。

「母の口出し」は前述のように全体で父より多い。

また, 男女生徒とも母親より「そう」「かなりそう」という回答が多い ( $\chi^2=20.669$ ,  $p=0.000$ ,  $\chi^2=8.892$ ,  $p=0.003$ )。

## (2) なにかと相談する

「父の相談」については, 表3のように全体に「そうではない」が三分の二あるなど, あまり相談しないという回答が多いことが特徴である。この割合は表4の「母の相談」より圧倒的に大

表3 父は相談する (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	16	3.1	33	6.5	185	36.4	274	53.9	508	100.0
女子	22	3.8	34	5.9	178	31.1	338	59.1	572	100.0
男子の父親	6	1.7	21	6.0	128	36.5	196	55.8	351	100.0
女子の父親	8	2.8	18	6.3	106	36.9	155	54.0	287	100.0
合計	52	3.0	106	6.2	597	34.7	963	56.1	1718	100.0

表4 母は相談する (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	33	6.5	36	7.1	146	28.8	292	57.6	507	100.0
女子	54	9.5	34	6.0	167	29.3	315	55.3	570	100.0
男子の母親	18	5.2	26	7.5	139	39.9	165	47.4	348	100.0
女子の母親	12	4.2	18	6.3	87	30.5	168	58.9	285	100.0
合計	117	6.8	114	6.7	539	31.5	940	55.0	1710	100.0

さい ( $\chi^2=217.948, p=0.000$ )。そして、この傾向は全層共通である。

また、中学生の男女の間に差はないが、男女生徒とも父親より「そうではない」という回答が多い ( $\chi^2=200.736, p=0.000, \chi^2=266.966, p=0.000$ )。

「母の相談」は表4のように全体に「そうではない」回答が多いが、「父の相談」ほどではない。

また、生徒の男女の間に差はないが、男女生徒とも父の場合と同様に、母親より「そうではない」という回答が多い ( $\chi^2=161.145, p=0.000, \chi^2=217.415, p=0.000$ )。

### (3) いうことなら何でもきく

「父いうこときく」は、表5のように全体に「そうではない」が多い。つまり、各層とも「いうことをきく」とは思っていない。また、この割合は「父いうこときく」より表6の「母いうこときく」で大きい ( $\chi^2=12.624, p=0.000$ )。つまり、母の方がいうことをきかないという傾向が全体にある。

また、生徒の男女、男子の父と女子の父の間に差はない。

「母いうこときく」は、表6のように全体に「そうではない」が父よりは多い。また、生徒の男女、男子の母と女子の母の間に差はない。

表5 父はいうこときく (人, %)

	1)そうである		2)かなりそうである		3)ややそうだ		4)そうではない		合計	
男子	157	30.9	121	23.8	165	32.5	65	12.8	508	100.0
女子	173	30.2	102	17.8	211	36.9	86	15.0	572	100.0
男子の父親	106	30.5	80	23.0	144	41.4	18	5.2	348	100.0
女子の父親	81	28.3	71	24.8	118	41.3	16	5.6	286	100.0
合計	517	30.2	374	21.8	638	37.2	185	10.8	1714	100.0

表6 母はいうこときく (人, %)

	1)そうである		2)かなりそうである		3)ややそうだ		4)そうではない		合計	
男子	100	19.7	104	20.5	172	33.9	132	26.0	508	100.0
女子	103	18.0	79	13.8	212	37.0	179	31.2	573	100.0
男子の母親	45	12.8	54	15.4	191	54.4	61	17.4	351	100.0
女子の母親	43	15.1	37	13.0	149	52.5	55	19.4	284	100.0
合計	291	17.0	274	16.0	724	42.2	427	24.9	1716	100.0

### (4) あまりかまわない

「父かまわない」については、表7のように全体に「そうではない」という回答が多く、この割合は表8の「母かまわない」よりは小さい ( $\chi^2=49.427, p=0.000$ )。つまり、父が子どもを

表7 父はかまわない(人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	67	13.2	95	18.8	190	37.5	154	30.4	506	100.0
女子	77	13.5	69	12.1	208	36.6	215	37.8	569	100.0
男子の父親	59	16.9	64	18.3	160	45.8	66	18.9	349	100.0
女子の父親	44	15.3	37	12.9	140	48.8	66	23.0	287	100.0
合計	247	14.4	265	15.5	698	40.8	501	29.3	1711	100.0

表8 母はかまわない(人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	45	8.9	49	9.7	170	33.6	242	47.8	506	100.0
女子	46	8.1	39	6.9	166	29.2	318	55.9	569	100.0
男子の母親	12	3.5	13	3.8	102	29.7	217	63.1	344	100.0
女子の母親	12	4.2	9	3.2	70	24.6	193	68.0	284	100.0
合計	115	6.8	110	6.5	508	29.8	970	57.0	1703	100.0

かまわないと思っている父や生徒は多くない。

この傾向は生徒の男女の間には違いがないが、男子の父と女子の父の間には差があり、男子の親の方が女子の親より「そうではない」と答える割合が小さい( $\chi^2=8.360$ ,  $p=0.004$ )。また、「そうではない」と答える割合は男子生徒より男子の父が少ない( $\chi^2=49.427$ ,  $p=0.000$ )。つまり、男子の父が最も「子どもをかまわない」と考える傾向が強い。

「母かまわない」については、表8のように全体に「そうではない」という回答が多く、この割合は前述のように父の場合より大きい。つまり、母の方が「かまう」と考えられている。群間の違いはない。

##### (5) うまくやっている

「父とうまくやっている」については、表9のように全体に「そうである」という回答が多くうまくやっていると考えられる傾向が強い。しかし、この割合は表10の「母とうまくやっている」よりは小さい( $\chi^2=69.162$ ,  $p=0.000$ )。この傾向は男子、女子、男子の親、女子の親に共通である。つまり、「父とうまくやっている」と思う親子より「母とうまくやっている」と思う親子が多い。「父とうまくやっている」と言う間に肯定的な者は男子より女子に多い( $\chi^2=4.758$ ,  $p=0.029$ )。「母とうまくやっている」については層別に有意な差はない。

日本の中学生の親子関係と非行的態度

表9 父とうまくやっている (人, %)

	1)そうである	2)かなりそうである	3)ややそうだ	4)そうではない	合計
男子	87	86	170	165	508 100.0
女子	89 15.6	80 14.0	190 33.3	211 37.0	570 100.0
男子の父親	110 31.4	75 21.4	140 40.0	25 7.1	350 100.0
女子の父親	90 31.5	86 30.1	98 34.3	12 4.2	286 100.0
合計	376 21.9	327 19.1	598 34.9	413 24.1	1714 100.0

表10 母とうまくやっている (人, %)

	1)そうである	2)かなりそうである	3)ややそうだ	4)そうではない	合計
男子	67 13.2	46 9.1	131 25.8	264 52.0	508 100.0
女子	68 11.9	35 6.1	147 25.7	323 56.4	573 100.0
男子の母親	79 22.5	76 21.7	128 36.5	68 19.4	351 100.0
女子の母親	55 19.2	64 22.3	109 38.0	59 20.6	287 100.0
合計	269 15.6	221 12.9	515 30.0	714 41.5	1719 100.0

(6) 尊敬している

「父(母)を尊敬している」については、表11, 12のように全体に「そうはない」という回答は四分の一程度であるが、反対に「そうである」も十数パーセントと少なく、はっきり「尊敬している」とは言えない値である。

「尊敬」については、父親-母親に対する男子, 女子の態度がやや複雑である。男子は、母親より父親を尊敬し ( $\chi^2=4.412, p=0.036$ ), 父親に対する尊敬は女子より強い ( $\chi^2=8.266,$

表11 父を尊敬している (人, %)

	1)そうである	2)かなりそうである	3)ややそうだ	4)そうではない	合計
男子	129 25.7	122 24.3	166 33.1	85 16.9	502 100.0
女子	143 24.5	125 21.4	210 36.0	106 18.2	584 100.0
男子の父親	53 13.2	87 21.7	222 55.4	39 9.7	401 100.0
女子の父親	59 15.0	84 21.3	206 52.3	45 11.4	394 100.0
合計	384 20.4	418 22.2	804 42.7	275 14.6	1881 100.0

表12 母を尊敬している (人, %)

	1)そうである	2)かなりそうである	3)ややそうだ	4)そうではない	合計
男子	50 10.0	60 12.0	132 26.3	260 51.8	502 100.0
女子	50 8.6	40 6.8	166 28.4	328 56.2	584 100.0
男子の母親	59 14.6	61 15.1	237 58.7	47 11.6	404 100.0
女子の母親	71 18.0	99 25.1	186 47.2	38 9.6	394 100.0
合計	230 12.2	260 13.8	721 38.3	673 35.7	1884 100.0

p=0.004)。他方、女子は父親より母親を尊敬している ( $\chi^2=4.225, p=0.040$ )。

また、男子生徒・女子生徒双方の父親とも母親より「尊敬されている」と思っている ( $\chi^2=21.571, p=0.000, \chi^2=7.957, p=0.008$ )。

さらに、男子は父親・母親自身が思っているより父親や母親を尊敬している ( $\chi^2=12.988, p=0.000, \chi^2=60.081, p=0.000$ )。女子生徒は母親自身が思っている以上に母親を尊敬している ( $\chi^2=38.179, p=0.000$ )。

以上のことをまとめると、男子中学生と父親、女子中学生と母親という結びつきがあるということが言え。また、親は自分が考えているよりは子どもに尊敬されているということが指摘できる。

### (7) 期待している

「期待」については、表13、14のように全体で「そうだ」は十パーセント台だが、「そうではない」も30パーセント以下であり、そこそこの期待である。父親と母親に対する期待は全体では差はない。

「父の期待」は男子の方が女子より強く感じている ( $\chi^2=5.294, p=0.021$ )。

「母の期待」は男子について、母親自身より生徒の方が「母親の期待」を強く感じている ( $\chi^2=8.523, p=0.004$ )。反対に、女子については母親の方が期待が強い ( $\chi^2=7.431, p=0.006$ )。

表13 父は期待している (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	16	3.2	23	4.6	165	32.9	297	59.3	501	100.0
女子	17	2.9	30	5.2	178	30.6	356	61.3	581	100.0
男子の父親	5	1.2	15	3.7	126	31.4	255	63.6	401	100.0
女子の父親	3	0.8	12	3.1	125	31.8	253	64.4	393	100.0
合計	41	2.2	80	4.3	594	31.7	1161	61.9	1876	100.0

表14 母は期待している (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	15	3.0	27	5.5	115	23.2	338	68.3	495	100.0
女子	27	4.7	16	2.8	146	25.2	390	67.4	579	100.0
男子の母親	6	1.5	14	3.5	116	29.1	262	65.8	398	100.0
女子の母親	14	3.6	13	3.3	117	29.7	250	63.5	394	100.0
合計	62	3.3	70	3.8	494	26.5	1240	66.5	1866	100.0



(8) 父母のようになりたい

「父(母)のようになりたい」については、表15, 16のように全体で「そうだ」は十パーセントにも満たず、「そうではない」は50パーセントを超えるように「なりたい」は全体に少ない。

他方、「父親」と「母親」に対しての生徒の「なりたい」という割合は異なり、男女共に「父親」より「母親」のようになりたいという割合が大きい ( $\chi^2=69.162, p=0.000, \chi^2=13.431, p=0.000$ )。

「父のようになりたい」については、女子より男子が強く ( $\chi^2=6.974, p=0.008$ ), 男子女子とも中学生はその父親より強い ( $\chi^2=19.189, p=0.000, \chi^2=11.491, p=0.001$ )。

「母のようになりたい」については、男子の母親より女子の母親が強く ( $\chi^2=8.889, p=0.003$ ), 男子女子とも中学生はその親より強い ( $\chi^2=60.081, p=0.000, \chi^2=59.917, p=0.000$ )。

表15 父のようになりたい (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	179	35.8	137	27.4	141	28.2	43	8.6	500	100.0
女子	236	40.8	134	23.1	144	24.9	65	11.2	579	100.0
男子の父親	175	43.6	99	24.7	114	28.4	13	3.2	401	100.0
女子の父親	153	39.0	116	29.6	113	28.8	10	2.6	392	100.0
合計	743	39.7	486	26.0	512	27.4	131	7.0	1872	100.0

表16 母のようになりたい (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	83	16.6	105	21.0	171	34.3	140	28.1	499	100.0
女子	120	20.7	98	16.9	193	33.2	170	29.3	581	100.0
男子の母親	26	6.6	30	7.7	234	59.8	101	25.8	391	100.0
女子の母親	35	9.1	38	9.8	225	58.3	88	22.8	386	100.0
合計	264	14.2	271	14.6	823	44.3	499	26.9	1857	100.0

(9) に親切を教える

「父(母)から人に親切にすることの大切さを教わった」(親の場合は「私は…教えた」)については、表17, 18のように全体で「そうだ」が20~30パーセントを超えて多い。

全体では父より母の方がこの割合は大きい ( $\chi^2=77.667, p=0.000$ )。この傾向は男女生徒、親の全ての層に共通する。すなわち、中学生は父親より母親からより多く「親切」を教わったと思い、親も母親の方がより多く「教えた」と思っている。

他方、教わる中学生と、教える親とのギャップもあり、「父親」に関しても、「母親」に関し

表17 父は親切を教えた (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	81	16.2	93	18.6	193	38.7	132	26.5	499	100.0
女子	85	14.7	89	15.4	210	36.3	194	33.6	578	100.0
男子の父親	59	14.8	44	11.0	226	56.6	70	17.5	399	100.0
女子の父親	45	11.5	42	10.7	224	57.1	81	20.7	392	100.0
合計	270	14.5	268	14.3	853	45.7	477	25.5	1868	100.0

表18 母は親切を教えた (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	52	10.4	56	11.2	189	37.7	204	40.7	501	100.0
女子	77	13.3	54	9.4	187	32.4	259	44.9	577	100.0
男子の母親	1	0.3	2	0.5	74	19.6	300	79.6	377	100.0
女子の母親	9	2.3	7	1.8	99	25.6	271	70.2	386	100.0
合計	139	7.6	119	6.5	549	29.8	1034	56.2	1841	100.0

ても、教える父母はより多く教えたと言ひ、教わる中学生はそれほどは教わっていないと答える（「父教える」：男子-父  $\chi^2=30.128$ ,  $p=0.000$ , 女子-父  $\chi^2=80.494$ ,  $p=0.000$ , 「母教える」：男子-父  $\chi^2=34.591$ ,  $p=0.000$ , 女子-父  $\chi^2=64.600$ ,  $p=0.000$ )。「父親切教えた」については、男子の父より女子の父が「教えた」が多く ( $\chi^2=4.833$ ,  $p=0.028$ ), 「母親切教えた」については、上記以外の群間の違いはない。

### (10) こわい

「父(母)は自分にとってこわい存在だ」(親の場合は「私は子どもにとって…」については、表19, 20のように全体で「そうではない」が各々40, 50パーセントを超えて多くい。

全体では「父親」より「母親」の方が「そうでない」の割合は大きい ( $\chi^2=24.148$ ,  $p=0.000$ )。この傾向は男女生徒, 親の全ての層に共通する。すなわち, 親子皆が母より父のほうが「こわい」と答える傾向がある。

「父こわい」については, 男子・女子生徒よりその父親の方がより「こわい」が多い ( $\chi^2=93.009$ ,  $p=0.000$ ,  $\chi^2=99.337$ ,  $p=0.000$ )。

「母こわい」についても, 男子・女子生徒よりその母親の方がより「こわい」が多い ( $\chi^2=80.292$ ,  $p=0.000$ ,  $\chi^2=105.726$ ,  $p=0.000$ )。

つまり, 父母とも自分が考えるほど, 子どもはこわいとは思っていないということである。

日本の中学生の親子関係と非行的態度

表19 父はこわい (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	111	22.2	132	26.5	155	31.1	101	20.2	499	100.0
女子	155	26.8	97	16.8	184	31.8	142	24.6	578	100.0
男子の父親	186	45.9	90	22.2	114	28.1	15	3.7	405	100.0
女子の父親	163	41.7	110	28.1	116	29.7	2	0.5	391	100.0
合計	615	32.8	429	22.9	569	30.4	260	13.9	1873	100.0

表20 母はこわい (人, %)

	1) そうである		2) かなりそうである		3) ややそうだ		4) そうではない		合計	
男子	36	7.2	52	10.4	106	21.1	308	61.4	502	100.0
女子	45	7.7	40	6.8	121	20.7	378	64.7	584	100.0
男子の母親	40	10.0	58	14.5	176	44.1	125	31.3	399	100.0
女子の母親	48	12.2	54	13.7	169	42.9	123	31.2	394	100.0
合計	169	9.0	204	10.9	572	30.4	934	49.7	1879	100.0

## 2. 親子関係と非行的態度

中学生の認識する親子関係の各々と非行的態度との関係を検討するために、非行許容性に関する10項目を合計し、その合計得点を親子関係の各項目の選択肢を高低二分した2群間で比較した。

結果は表21, 22のとおりである。値が小さいほど非行的行為が「たいしたことはない」という答えであり、非行に許容的であることを示している。

父子関係の項目の高低2群間に有意差のあったものは、差の大きい順に、「父のようになりたい」、「父を尊敬している」、「父は私に期待している」、「父とうまくいっている」、「父は私のことをかまわない(-)」、「父は人に親切にすることの大切さを教えた」、「父はこわい」、である。

母子関係の項目の高低2群間に有意差のあったものは、差の大きい順に、「母を尊敬している」、「母は人に親切にすることの大切さを教えた」、「母のようになりたい」、「母はこわい」、「母とうまくいっている」、「母は私に期待している」、「母は私のすることになにかと口出しする(-)」、「母は私に相談する」、「母はわたしのいうことなら何でもきいてくれる」、「母は私にあまりかまわない」、である。

母子関係についての項目は全てが子どもの非行許容性と有意な関係があった、また、「母を尊敬している」の高低2群の非行許容性得点には父母の項目で最も大きな2.7の差があった。

以上のように、父母-子関係と子どもの非行的態度との間には明らかな関係があるといえる。また、このような関係は父子より母子でより強いと言える。

表21 父子関係と非行許容性

	父口出しする			父は相談する			私のいうこときく			私のことかまわない			父とうまくいく		
	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N
そうだ	28.0	6.823	693	28.6	7.155	165	27.9	6.994	468	27.4	7.048	472	28.7	6.726	555
そうでない	28.0	7.008	393	27.9	6.838	921	28.1	6.818	615	28.5	6.746	608	27.3	6.989	528
t	0.159			1.148			0.354			2.515			3.139		
P	0.874			0.251			0.723			0.012			0.002		
	父を尊敬している			私に期待している			父のようになりたい			父は親切を教えた			父はこわい		
	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N
そうだ	29.0	6.840	386	29.0	6.939	309	28.9	6.742	516	28.7	6.746	343	28.5	6.837	495
そうでない	27.5	6.859	698	27.6	6.840	769	27.1	6.913	562	27.7	6.941	738	27.5	6.907	589
t	3.485			2.803			4.282			2.342			2.316		
P	0.001			0.005			0.000			0.019			0.021		

表22 母子関係と非行許容性

	母口出しする			母は相談する			私のいうこときく			私のことかまわない			母とうまくいく		
	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N
そうだ	27.4	6.923	519	28.5	6.824	499	28.6	6.838	431	27.3	7.141	348	29.0	6.793	416
そうでない	28.6	6.863	570	27.6	6.970	590	27.6	6.960	654	28.3	6.790	729	27.3	6.897	666
t	2.707			1.994			2.114			2.080			3.828		
P	0.874			0.046			0.035			0.038			0.000		
	母を尊敬している			私に期待している			母のようになりたい			母は親切を教えた			母はこわい		
	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N	$\bar{X}$	<i>SD</i>	N
そうだ	29.7	6.627	406	29.2	6.478	348	29.3	6.521	616	29.1	6.592	496	28.5	6.714	400
そうでない	27.0	6.873	677	27.5	7.042	732	26.4	7.083	465	27.1	7.048	584	27.7	7.012	689
t	6.124			3.780			6.708			4.847			1.701		
P	0.000			0.000			0.000			0.000			0.089		

## 考 察

### 1. 親子関係に対する中学生と親の認識

#### (1) 全対象者に共通した傾向

親子関係の項目で、全対象者に概ね共通して、また父母に共通して比較的肯定的な回答が多かったものは、「父（母）とうまくいっている」、「父（母）は人に親切の大切さ教えた」である。反対に否定的回答の多かった項目は「父（母）は口出しする」、「父（母）は相談する」、「いうこときく」、「かまわない」、「父（母）のようになりたい」、「父（母）はこわい」である。これらの項目ほどではないがやはり否定的回答が多いのが「父（母）を尊敬している」と「父

(母)は期待している」である。

先に述べたように、我々のこれまでの研究の結果、日本の中学・高校生親子関係は他の国に比べて、子どもが親のようになりたくない、親を尊敬しない等、心理的距離が遠いと言えるような問題がある。(松井他 1999, 2000, 中里・松井 1997, 1999, 2001)。今回の調査結果もこれまでの結果を裏付けるものであった。

確かに、「うまくいっている」、「親切の大切さ教えた」にある程度肯定的であることや「かまわない」、「いうこときく」、はあまり多くないことなど、関係の良さや、親の子どもに対する望ましい関与を示す傾向もある。しかし、「父(母)のようになりたい」が圧倒的に低く、「父(母)を尊敬している」「父(母)は期待している」も高くないことは子が親のことを尊重していないことを示し、また、「父(母)は相談する」、「父(母)はこわい」に否定的なことは親の関与が十分でないことを示している。

このように、今回の調査結果からも日本の中学生の親子関係に、やはり心理的距離が遠いと言え得る問題があることが示された。

## (2) 父親と母親の違い

父親と母親に関する項目を比較する。

父親に比較的肯定的傾向があった項目は、「いうこときく」「かまわない」「こわい」である。

反対に母親の方が肯定的だったのは、「口出しする」、「相談する」、「うまくいっている」、「親切の大切さ教えた」である。

「こわい」を除けば父親の方が、子どもとの関係が悪く、子どもに対する関与が少ない。やはり日本の父親には子どもとの関係に問題があると言わざるを得ないだろう。

ここでもう一つ指摘しておかなければならないことは、父-男子のような同性の親子の問題である。男子は母親よりも父親を「尊敬する」傾向があり、女子は父親よりも母親を「尊敬する」傾向がある。つまり、同性の親との結びつきである。その意味で前述のような父親の問題は男の子の問題につながり得ることが心配と言えよう。他方、男子も女子も父親より「母親のようになりたい」という傾向が強いことは、上述の同性の親子の結びつきと矛盾する。ということは、ほんらいなら同性の親子の関係は大事なにもかかわらず、父親が本来の役目を果たし得ないということを示しているとも考え得る。その意味で、やはり、わが国の父親は問題があるということになる。

### (3) 中学生と親の親子関係の認識の違い

親子関係について中学生の評価とその親の評価を比較する。

親が「そうだ」と思っているにもかかわらず中学生はそれほどには思わず否定的なのが、「相談する」、「親切の大切さ教えた」、「こわい」である。

反対に、親が「そうではない」と思っているにもかかわらず中学生は肯定的なのが、「口出し」、「尊敬している」、「父（母）のようになりたい」である。

中学生は親のことを相談しない、教えない、うるさいと思い、こわくもないと感じているようである。これは、やはり問題であろう。他方、中学生は親が思っているより親を、尊敬し、親のようになりたいとも思っている。これらの項目は肯定的回答が多くないものではあるが、それでも、中学生は親を尊重し期待するところもあるわけである。

## 2. 親子関係と非行的態度

この調査で親子関係について調べた動機は、そもそもそれが青少年の非行的態度と関係があるのではないかと考えたからである。結果はこのような仮説を完全に支持するものであった。父母問わず親子関係が良いと思われる傾向は、非行許容性に関する10項目の合計点の低さと有意な関係があった。特に、「尊敬」、「(親のように) になりたい」、「うまくいっている」、「期待されている」の項目は父母問わず、これの良い-悪いの2群の間で非行許容性の合計に大きな差があった。これらの項目は、『親子関係の良さ』を表す項目である。もちろん、このことはすぐに因果関係を示しているわけではない。しかし、親子関係の良し悪しと非行との間に因果関係がある、すなわち、非行の原因の一つは親子関係の問題であると言い得る結果と考える。

## 3. 結論

本研究の目的は、中学生の親子関係について調査し、それが非行的態度と関連があるかどうか検討することであった。結果は、中学生の親子関係には問題があり、そして少なくとも親子関係は非行的態度の原因の一つと言い得るものであった。その意味で、日本の親子関係がやはり心理的距離が遠いと言い得るような問題を抱えていることは、わが国の青少年の問題の対策を考える上で心配と言わざるを得ない。まず親子関係を良好にする親の努力が必要である。その方向は、「(親のように) になりたい」、「尊敬する」と思われる親になるということである。実際子どもはそれを望んでいると言うことが本結果にも表れていた。加えて、親は子どもが思っている以上に自分たちの親子関係を「悪く」みる傾向もあった。親はもっと自信を持つということも必要である。

## 引用文献

- 松井 洋 1991, 「青年期における愛他行動の発達とその規定因」, 『川村学園女子大学研究紀要』第2巻 181-193.
- 松井 洋・中里至正・加藤義明・瀬尾直久・石井隆之 1995 「愛他性の構造に関する国際比較研究」『日本心理学会第59回大会発表論文集』, 173.
- 松井 洋 1997, 「愛他性に関する国際比較研究—米国, 中国, 韓国, トルコ, 日本の中学生・高校生を対象として—」『川村学園女子大学研究紀要』第8巻 第1号, 147-165.
- 松井 洋 1998 「中学・高校生の思いやり意識—日本・中国・韓国・アメリカ・トルコの学生・高校生を対象として—」, 『川村学園女子大学研究紀要』第8巻 第1号, 147-165.
- 松井 洋・中里至正・石井隆之, 1998, 「愛他性の構造に関する国際比較研究」, 『社会心理学研究』, 第13巻, 2号, 133-142.
- 松井 洋 1998, 「中学・高校生の思いやり意識—日本・中国・韓国・アメリカ・トルコの愛他性の国際比較研究—」, *Health Sciences*, vol. 14, no. 2, 45-55, 日本健康科学学会.
- 松井 洋 1998, 「愛他性に関する国際比較研究—日本, 中国, 韓国, アメリカ, トルコ, キプロス, ポーランドの中学生・高校生を対象として—」, 『川村学園女子大学研究紀要』第9巻 第1号, 175-186.
- 松井 洋 1999, 「日本の中学生・高校生の価値観に関する研究—日本, アメリカ, 中国, 韓国, トルコ, キプロス, ポーランドとの国際比較研究—」, 『川村学園女子大学研究紀要』第10巻.
- 松井 洋, 2000, 「日本の若者のどこがへんなのか? 中学生・高校生の国際比較から—」, 『川村学園女子大学研究紀要』, 第11巻, 第1号, 101-114.
- 松井 洋・中里至正・石井隆之, 2000, 「中学生の親子の心理的距離」, 『日本心理学会第64回大会論文集』, 190.
- 松井 洋, 2001, 「日本の中学生の親子関係」, 『川村学園女子大学研究紀要』第12巻, 第1号, 171-180.
- Nakasato, Y. & Matstui, H., 1993 Altruistic Attitudes of Japanese Youths. *International Journal of Psychology*, vol. 27, pp562.
- Nakasato, Y. & Matstui, H., 1996 A Structure of Altruistic Attitudes —A Comparison of American, Chinese, Korean, Turkish and Japanese Youths—. *International Journal of Psychology*, vol. 28, pp48.
- 中里至正・加藤義明・杉山憲司・松井 洋・瀬尾直久 1992, 「非行抑止要因の文化差に関する研究—日本・韓国・米国・中国の高校生を対象として—」, (財)日工組調査研究財団委託研究報告書.
- 中里至正・松井 洋 (編著), 1997 『異質な日本の若者たち』, プレーン出版.
- 中里至正・松井 洋 1999 『日本の若者の弱点』, 毎日新聞社.

1) 本論文は、東洋大学中里至正教授との共同研究の成果をまとめたものである。